

家族、恋愛、子育て、ビジネス、どんな人間関係にも活かせる

■人を前向きにして自分も元気をもらえる

駒野あゆみさんは、スタッフをしている富山市内の助産院で、『ママなび講座』を7年間、毎月開催している。個々のママの「上の子の扱い方がわからない」「兄弟なのに全然違う」といった悩みにも、性格統計学をもとにカウンセリングをする。スッキリした顔で「早速実践してみます！」と帰っていくママの姿を見ると、むしろ自分が元気をもらっていることを実感するという。

他にも、少人数のセミナーからPTAの父兄や生徒向けの講演、高校の教職員への講座、60歳以上のシニアアカレτζジの講師など、様々な人達に生き方やコミュニケーションのヒントを伝えている。

「家庭では、子どもたちへの声かけですね。我が家の長男と次男は違うタイプで、やる気になる声かけや響く褒め言葉、タブーも違います。それぞれに伝わる声かけをしています。今年24歳の長男と18歳の次男とは、周りからも『ほんとに仲良しだよ。うちも息子とそんな関係になりたいわ』などとよく言われる仲です」

■性格統計学で人それぞれの本質を読み取り導く

性格統計学とは、(一社)日本ライフコミュニケーション協会の代表理事を務める稲場真由美さんが、16年をかけて、のべ12万人のデータを解析し体系化した「人の性格の違い」に着目したコミュニケーションメソッド。カウンセリングは、専用診断ソフトを使い、人それぞれの価値観や性格の違いによるコミュニケーションのずれや誤解の原因を見出し、具体的な問題解決に導く手法だ。協会では、心理統計シ

心理統計シニアライフカウンセラー
性格統計ライフコミュニケーション講師

駒野あゆみさん

もともと深く悩むタイプではなかったが、性格統計学を学んだことで、自分と相手との違いを認めることができるようになり、明らかにストレスが軽減した。周りからは「いつもおおらかなだね」「怒ることあるの?」と羨ましがられるそうだ。



ニアライフカウンセラーの他にも、子育て・人間関係・ビジネスなど、様々な活用シーンを想定した講座を主に東京と富山で開催し、資格を認定している。駒野さんは、講師資格取得後も学びを継続。現在「伝え方コミュニケーション検定」の講師も務め、スキルを家庭や社会で役立てている一人である。

■きっかけは長男の不登校を解決したくて

「私がこの資格を知ったのは、長男が高校1年生の時でした。進学校で毎日課題に追われていたある日、高校へ行かなくなったのです。しばらく休んで

も全く活力の出ない様子を見ていて、母親として真剣に悩みました。良いと言われることは何でもしたと思います。東京の支援センターにも通いました。そんな中、友人の紹介で出会ったのが性格統計学で、長男も私もそれぞれがカウンセリングを受けました。まず「自分と相手を知る」ことから始まり、お互いの価値観の違いがわかりました。私が良かれと思っかけていた言葉の数々が、長男には逆にやる気を失くす言葉だったのです。これはもう自分が学んで、子どもたちに合った関わり方をするしかない、すぐに学びながら実践を始めました」

おかげで長男は無事卒業、大学を経て富山で就職し、家族仲良く充実した毎日を送っている。

■一生の仕事として携われるのも魅力

「学び始めてからカウンセラー資格取得まで約1年、コミュニケーション講師資格取得までは、約1年半かかりました。私は家でひとりで勉強できるタイプではなかったので、参加型講座を受講することで勉強を進めました。学んでみて感じたのが、『もっと早く知っていたかった』ということなんです。

この資格の最大の魅力は、コミュニケーション全ての場面で活用できること。そして、歳を重ねても一生の仕事として携われることです。自分の知識と自分の言葉で、目の前の相手を元気にすることができ、カウンセラーの仕事は、とてもやりがいがあり、何よりも人を元気にすることで自分がいっば元気をもらえる仕事です。家族、恋愛、子育て、ビジネス、どんな人間関係にも活かせる、言わば『ゆりかごから墓場まで』ですね(笑)」

●資格の認定元

一般社団法人日本ライフコミュニケーション協会 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21-1321 Mail: home@j-lca.org http://j-lca.com/